大本山永平寺

改歳（かいさい）

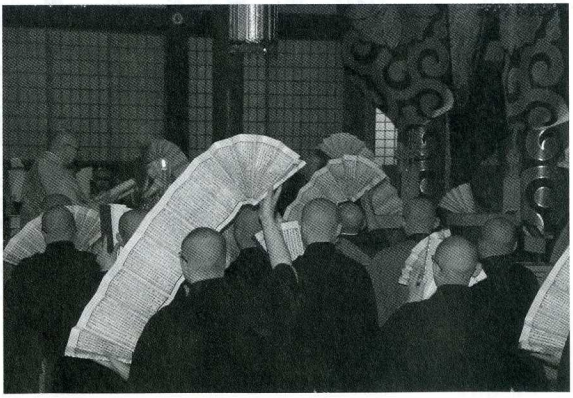
歳が改まり、読者の皆さまには清々しい元旦をお迎えのことと思います。

時にご参拝の方に「お休みはいつあるのですか？」と聞かれますが、「修行道場には休みはありません」と申し上げると驚かれます。

新年といえども修行生活の一場面ですのでいつもと変わらない時刻に坐禅、朝課を勤めます。そして新年を賀するための特別な法要「転読大般若（てんどくだいはんにゃ）」を勤めます。国内外の和平、皆さまのご多幸を祈り、六百巻の大般若経を左右に振り広げるその様子はあたかも落花流水の如しです。

さて、少し気は早いですが、今春の上山者のほとんどが平成生まれです。

彼らの生まれた元号は兎も角、永平寺の修行は黙々として滞ることなく続けられていきます。道元禅師は「春は花　夏ほととぎす　秋は月　冬雪さえて冷（すず）しかりけり」と詠まれました。この境涯に少しでも触れられるように美しい自然とともに精進を誓う私共です。



大本山總持寺

大梵鐘撞き初めを皮切りに、大本山總持寺の新年の行持が始まります。大梵鐘を打ち終えた一行が向唐門前に進むと、維那老師が「かいもーん」と大きな声をあげます。それを合図に、直歳寮々員が巨大な扉をあけます。この瞬間、まさに新年が幕開けします。

年がかわると、はじめに仏殿で祝祷諷経を勤めます。ここで、本年の世の平和と人々の幸福をお祈りします。普段の厳かな雰囲気とはうってかわり、お賽銭の投げ入れる音が飛び交う中でのにぎやかな法要となります。

引き続き各所で、新年の御祈祷が行われます。大祖堂では、今年九十五歳を迎えられる大道晃仙禅師御親修で大祈祷が始まります。また、日本一の大黒尊天前、三宝荒神さまをお祀りする三宝殿での御祈祷、さらに大駐車場では車祈祷が行われます。

例年三が日で二十万人を超える人が訪れ、山内中に祈祷太鼓が響き渡るなか、人々の波が絶え間なく続きます。今年は御移転百年の記念の年にあたり、我々も大きな希望を持って、新しい年を迎えることとなります。

曹洞俳壇

選・村松五灰子

墓花に芒一本づつ足しぬ

茨城県　蛭田　邦治

評　秋を表す象徴的なものに七草の一つ芒。供花に芒を一本ずつ足す。穂の美しさに静かな華やかさも伴う。おだやかな心に今日のお詣りがある。

秋茄子やこの集落に嫁来る日

福岡県　小林　栄行

評　この里に久し振りにお嫁さんが来る。上五に嫁に食わすなという秋茄子と置いたところに明るさと「おどけ」があり喜びの滲む一句となっている。

残る虫どのみち細る小商　秋田県　松山　蕗州

娘と婿と有給休暇稲を刈る　神奈川県　小野沢邦彦

頑固なる父を迎へる茄子の馬　佐賀県　池内　淳子

魚板鳴り首座の入寺や十三夜　栃木県　小村　翠香

袈裟外しよりの平らか月の友　東京都　伊奈　三郎

八十歳為りて挑戦菊作り　愛知県　平松　京師

美事なる芋名月にワイン酌む　広島県　宮野　和江

夕顔の闇切り裂いて白三つ　静岡県　飯田　裕子

行く秋の雨音聞こゆばかりなり　埼玉県　日尾野安子

ゆっくりと試歩に付き添ふ月明り　愛知県　戸田　清子

＊選者吟

我が腕の錆ては居らず独楽廻る

五灰子

＊作句小見

あけましておめでとうございます。今年も身近な暮らしを詠み、道の辺の草木に鳥たちに心寄せながら天地を考える。一句一句楽しく学んで参りましょう。御投句お待ちしております。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

土埃上げて過ぎゆく一台のトラック行かせお遍路の道

東京都　長谷川　瞳

評　作者が実際にお遍路さんとなって、霊場を巡っているその時のリアルな瞬間が捉えられている。トラックの土埃が、舗装されていない路の歩きにくさを想像させるとともに、現代的な巡礼の一場面を伝える。

天高く木漏れ日窓にささやける揺らぎの中に暫し身を置く

石川県　前田とよ子

評　初句の「天高く」がなければ、作者の身巡りのささやかな空間を描いた歌だったのであろうが、この詠い起しによって歌柄を大きくし秋という季節感と空気の澄明さを添えた。

十五夜の月を見たいと言う母の車椅子押し芒野をゆく
福島県　大槻　弘

美しや老師の中をすり足で経典積み上げ運ぶ雲水
岩手県　柴田　幸栄

剣舞の鬼面の下は赤銅色濃にきたえし壮年の顔
岩手県　池田　眸

思いたちこれが最後と秋草の石道踏みわけ砦へ登る
三重県　野呂　と志

妣の影求めて花野徘徊す招くがごとくすすき穂揺れる
新潟県　星野　三興

道の辺に鉄道草の茎たけて茂れば深き夏に入りゆく
山口県　中井　清子

おほかたの秋の仕舞を終へし午後無花果を摘み甘露煮つくる
宮城県　荒川　庄助

雪掻きて向う三軒両隣り道の繋がり今日のはじまり
秋田県　小田嶌恭葉

まだ暗き街に新聞配達のブレーキ軋む音のひびかふ
福岡県　三吉　誠

猛暑にて一個も生らぬ柿の木も平年並みに葉の落ちにけり
京都府　小林　靖子

＊選者詠

ふるさとの松浦（まつら）の海を吹く風となりて戻れり老母目覚めて

ちづ

＊作歌小見

車椅子に乗らねば移動出来ない状況は辛いものですが、大槻さんの作品の母子像には一幅の絵をみるような穏やかな美しさと安らぎを感じます。私の母は車椅子に座ることも出来ず、せめて夢の中で楽しんで欲しいと願っています。